

# 中 学 校 国 語

## 1 言語による見方・考え方を働かせる

言語による見方・考え方を働かせるとは、生徒が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること。

## 2 目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

### (1) (知識及び技能)

社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

### (2) (思考力, 判断力, 表現力等)

社会生活の中における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。

### (3) (学びに向かう力, 人間性等)

言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

改訂において示す国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力とは、国語で表現された内容や事柄を正確に理解する資質・能力、国語を使って内容や事柄を適切に表現する資質・能力であるが、そのために必要となる国語の使い方を正確に理解する資質・能力、国語を適切に使う資質・能力を含んだものである。正確に理解する資質・能力と、適切に表現する資質・能力とは、連続的かつ同時的に機能するものであるが、表現する内容となる自分の考えなどを形成するためには国語で表現された様々な事物、経験、思い、考え等を理解することが必要であることから、今回の改訂では、「正確に理解」、「適切に表現」という順に示している。

## 3 改訂の要点

### (1) 目標及び内容の構成

#### ① 目標の構成の改善

国語科で育成を目指す資質・能力を「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」と規定するとともに、目標を「知識及び技能」、「思考力, 判断力, 表現力等」、「学びに向かう力, 人間性等」の三つの柱で整理した。また、このような資質・能力を育成するためには、生徒が「言葉による見方・考え方」を働かせることが必要であることを示している。

#### ② 内容の構成の改善

三つの柱に沿った資質・能力の整理を踏まえ、従前、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の3領域及び〔伝統的な言語事項〕で構成していた内容を、〔知識及び技能〕及び〔思考力, 判断力, 表現力等〕に構成し直した。「学びに向かう力, 人間性等」については、教科及び学年等の目標においてまとめて示し、指導事項のまとまりごとに示すことはしていない。

### (2) 学習内容の改善・充実

〔知識及び技能〕と〔思考力, 判断力, 表現力等〕の各指導事項について、育成を目指す資質・能力が明確になるよう内容を改善した。

#### ① 語彙指導の改善充実

語彙は、全ての教科等における資質・能力の育成や学習の基盤となる言語能力を支える重要な要素である。このため、語彙を豊かにする指導の改善・充実を図っている。語彙を豊かにするとは、自分の語彙を量と質の両面から充実させることである。このことを踏まえ、各学年において、指導の重点となる語句のまとまりを示すとともに、語句への理解を深める指導事項を系統化して示した。

#### ② 情報の扱い方に関する指導の改善・充実

情報の扱い方に関する「知識及び技能」は国語科において育成すべき重要な資質・能力の一つである。こうした資質・能力の育成に向け、「情報の扱い方に関する事項」を新設し、「情報と情報の関係」「情報の整理」の二つの系統に整理して示した。

#### ③ 学習過程の明確化、「考えの形成」の重視

〔思考力, 判断力, 表現力等〕の各領域において、学習過程を一層明確にし、各指導事項を位置付けた。また、全ての領域において、自分の考えを形成する学習過程を重視し、「考えの形成」に関する指導事項を位置付けた。

④ 我が国の伝統文化に関する指導の改善・充実

「伝統的な言語文化」、「言葉の由来や変化」、「書写」、「読書」に関する指導事項を「我が国の言語文化に関する事項」として整理するとともに、第1学年及び第2学年の新しい内容として、言葉の豊かさに関する指導事項を追加するなど、その内容の改善を図った。

(3) 学習の系統性の重視

小・中学校を通じて、「知識及び技能」の指導事項及び「思考力、判断力、表現力等」の指導事項と言語活動例のそれぞれにおいて、重点を置くべき指導内容を明確にし、その系統化を図った。

(4) 授業改善のための言語活動の工夫

「思考力、判断力、表現力等」の各領域において、どのような資質・能力を育成するかを(1)の指導事項に示し、どのような言語活動を通して資質・能力を育成するかを(2)の言語活動例に示すという関係を明確にするとともに、各学校の創意工夫により授業改善が行われるようにする観点から、従前に示していた言語活動例を言語活動の種類ごとにまとめた形で示した。

(5) 読書指導の改善充実

各学年において、国語科の学習が国語科読書活動の学習に結びつくよう「知識及び技能」に「読書」に関する指導事項を位置付けるとともに、「読むこと」の領域では、学校図書館などを利用して様々な本などから情報を得て活用する言語活動例を示した。

## 4 指導計画の作成と内容の取扱い

(1) 指導計画作成上の配慮事項

① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に関する配慮事項

単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること。

② 「知識及び技能」に関する配慮事項

第2の各学年の内容の「知識及び技能」に示す事項については、「思考力、判断力、表現力等」に示す事項の指導を通して指導することを基本とし、必要に応じて、特定の事項だけを取り上げて指導したり、それらをまとめて指導したりするなど、指導の効果を高めるよう工夫すること。

③ 他教科等との関連についての配慮事項

言語能力の向上を図る観点から、外国語科など他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにすること。

④ 障害のある生徒への配慮についての事項

障害のある生徒などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。

(2) 内容の取り扱いについての配慮事項

① 「知識及び技能」に示す事項の取扱い

ア 日常の言語活動を振り返ることなどを通して、生徒が、実際に話したり聞いたり書いたり読んだりする場面を意識できるよう指導を工夫すること。

イ 漢字の指導については、第2の内容に定めるほか、他教科等の学習において必要となる漢字については、当該教科等と関連付けて指導するなど、その確実な定着が図られるよう工夫すること。

② 情報機器の活用に関する事項

ア 第2の指導に当たっては、生徒がコンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会を設けるなどして、指導の効果を高めるように工夫すること。

## 5 移行措置期間の留意事項

(1) 平成31年度及び平成32年度の第1学年並びに平成32年度の第2学年の国語の指導に当たっては、現行中学校学習指導要領第2章第1節第2〔第1学年〕の2〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1)ウ(7)のうち、「漢字を読む」及び現行中学校学習指導要領第2章第1節第2〔第1学年〕の2〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1)ウ(4)のうち「漢字を書き、文や文章の中で使う」並びに現行学習指導要領第2章第1節第2〔第2学年〕の2〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1)ウ(4)のうち「漢字を書き、文や文章の中で使う」の部分の規定に係る事項においては、「茨、媛、岡、渦、岐、熊、香、佐、埼、崎、滋、鹿、縄、井、沖、栃、奈、梨、阪、阜」を取り扱うものとする。

(2) 平成32年度の第1学年の国語に当たっては、現行中学校学習指導要領第2章第1節〔第1学年〕の2〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1)イ(4)に規定する事項に、新中学校学習指導要領第2章第1節〔第1学年〕の2〔知識及び技能〕(3)ウに規定する事項を加えるものとする。